

●日 時 平成 23 年 9 月 21 日 (水) 13:30～15:30

●会 場 アクロス福岡 608 会議室

●講 演 (敬称略)

テーマ「韓国・大田広域市 新ビジョンと戦略」～首都機能の移転を踏まえて～

(財)大田発展研究院 院長 李昶基 (イ チャンギ)

●講演記録

1. 開会挨拶 (13:30)

財団法人福岡アジア都市研究所顧問 樗木氏より開会挨拶

皆さんこんにちは。台風は今回幸いに九州を避けられましたけど、ただ今日本を縦断中です。今回、韓国大田 (テジョン) の都市づくりについて話す機会を設けさせていただきましたこと、ご参集いただきましてありがとうございます。

大田市は韓国の真中にある都市ですが、人口は福岡とほぼ同程度で 150 万人です。面積が少し福岡より広くて、福岡の 1.5 倍ぐらいです。皆さん方は、かつて大田で国際博覧会がありましたので、その際に観に行かれた方もいらっしゃるかもしれません。それから、そのことを契機として、これまでは筑波みたいなまちづくりが進んだところです。そういう意味では、韓国の中でもやや特異な都市として発展してきました。

最近になって、にわかに注目を浴びだしたのは、行政機能の移転ということです。日本は首都機能移転の法律ができたものの、うまくいかずに法律は残っていますが、組織がなくなっているというお話ですが、韓国はそれを乗り越えて、このほど大田のすぐ近接したところに世宗 (セジョン) というところがありますが、そこ大田を韓国の行政機能のほとんどすべてを移転するという注目を浴びているところです。きょうは、その大田市が今後どのように発展していくのか、展開していくのか、その構想をどのように描いているのか、そういう話をいただく機会をここに設けさせていただきました。

きょうお話いただく先生をご紹介しますと、李昶基先生です。私も福岡アジア都市研究所同様の研究機関が大田市にあり、それを「大田発展研究院」と申しますけれども、その院長をされている方です。元々、大田大学の行政学部の教授でございます。大田の今後の都市づくりの中心的な役割を担っている方です。今後 20 年先を目指してどうしていくのか構想をまとめられて、その話を今日いただくということです。たぶん、日本で初めて紹介いただけるということですので、興味あるところだろうと思って、きょうこの企画をいたしました。それでは、この後、時間もございませんので、即座に先生の話に移させていただきます。

2. 講演 (13:40～15:15)

(財)大田発展研究院院長 李昶基氏による講演

テーマ「韓国・大田広域市 新ビジョンと戦略」～首都機能の移転を踏まえて～

皆様こんにちは。私は韓国の大田発展研究院の李昶基です。どうぞよろしくお願ひします。

世界の中で住みやすい都市として7つの都市に入っている福岡市、または福岡市民の皆様方に大田のビジョンをお話する機会が持てて非常に光栄に思っています。今年2月に福岡の都市研究所と我々の研究所が姉妹協定を結んでいます。非常に大切な貴重な関係だと感じております。そしてこちらの研究所におられます樗木先生からはユニバーサルデザインについて、貴重なご意見を賜っている次第であります。

福岡市と大田市は似た面がいくつかあります。その一つとして、人口の規模が非常に似ております。福岡は南部日本におきまして、非常に大きな都市ですけれども、大田は大韓民国の中部地域の大都市と申し上げることができます。福岡は商業都市として非常に発展している都市であります。大田は流通、商業都市としての発展を遂げております。そして、福岡は関門、玄関口をしている都市でありますし、交通の要衝である都市です。そういった面で大田とよく似ていて、大田も大韓民国の中で交通の中心地として活躍しています。福岡と大田の違いを申し上げますと、福岡は国際的な玄関、役割をなしてきたところ、そう意味では少し違いがあると思っています。大田市も国際都市として今後発展していくことを考えています。そして、21世紀は海洋の時代と言われていて、福岡は海に面しているという条件がありますけれども、大田にはないという違いもあります。大田は海がなくて、内陸に位置していますが、大きな湖を抱えています。

そして、大田は科学の都市、科学のまちという位置づけで、その中で大徳はそういう地位を誇っています。科学団地が出来て約40年になります。40年の科学活動、研究、事業をしながら、300億ウォンの価値創出をなしたと言われております。福岡、大田は似たようなところもあり、違うところもあるんですけれども、同じく両研究所が願うのは市民が幸福であり、市民が暮らしやすい都市という意味で一致していると思っています。福岡を訪問するたびに感じることでございますけれども、福岡は活力に満ちている、富がある富裕な都市だと感じています。そういった意味で、福岡の都市のノウハウを学んでいきたいと思っております。

簡単に大田のことについてご説明申し上げます。大田は元々、日本人が作った新都市から出発しています。1905年にソウルと釜山を結ぶ鉄道ができたんですけれども、その時の鉄道建設の中心地が大田です。1920年代の統計を見ますと、そのときの大田の人口は約9000人です。その中で日本人が占めるのは6500人だったと言われております。大田の駅前には本町という町の名前が残っているほどです。1930年代に入って、道庁、日本で言う県庁ですけれども、道庁が行政機関が大田に移ってきて都市が大きくなり始めています。その後、1950年に韓国南北戦争があって、いったんは廃墟のような状況になっております。その後、復興を遂げて、1970年代の初めに高速道路が出来て、それから発展に拍車がかかっております。1970年代の中盤に大徳研究団地が造成され、そこから科学都市としての地位を確立させています。1980年代に国防、防衛関係の施設すべてが大田に来ています。陸軍、海軍、空軍全て移っています。1990年に入ると、政府機関、先端産業が建ち始めています。そして、皆さんご存じかと思いますが、1993年に大田でエキスポが開かれ、それを基盤にさらなる成長を遂げています。そして、2000年に入って成長するきっかけがあって、それは行政都市世宗市の構想です。ノムヒョン大統領の時代に、均等の取れた国土発展ということを念頭におきまして、ソウルに過度に集中している機関を、大田の横の世宗市を行政の首都として、政策を立てて、多くの政府機関が移ってきています。その時に、首都の機能を移すということで、ソウル市民の反対、抗議はかなりありました。現在、日本でも東京の首都機能を移すという話がありますが、東京の方の人たちがかなり反対、抗議をしていると判断しています。韓国におきましては行政都市として新しく移し始めているんですけれども、それは先ほど申し上げましたように、首都に大韓民国の人口の50%が集中している問題が背後にあると思いま

す。その当時、大田、忠清南道（チュンチョンナムド）でいろいろ活動があったんですけども、その時、私自身が市民の代表として活動しました。もし、日本の首都を福岡に移そうという考えがあったら、私がお手伝いします。もう一つは、最近、発展している一つの理由として、国際科学ベルトという構想がありまして、それを大田でやっているということが原因かと思います。

それでは、大田の宝をいくつか紹介します。大田は周りが山に囲まれた、その中で一番有名な鶏龍山（ケリョンサン）というのがあるんですが、それを中心とした周囲を山に囲まれた都市です。市内から少し離れたら山を楽しむことができます。そして、大田市内には3つの大きな川が流れています。大きな川が3本ある関係で排水がうまくいって、大雨が降っても洪水の被害がほとんどありません。そして、大田には儒城（ユソン）という温泉があります。体を休めることができる機能も備えています。エキスポを中心として科学技術の振興をずっとやってきたんですが、陰りが見え出して、再活性化、再発展をさせることも必要だと考えています。福岡も以前、こちらで博覧会をされて、跡地利用でいろんな考えがあったと思いますが、大田もいろんな構想をもって進めています。

もう一つ自慢できるのが、先ほど申し上げた大徳研究団地です。研究者が滞在しながら素晴らしい環境で研究できる施設となっています。大田のほうに動物園があって、長く生きている亀がいます。動物園に行かれたらぜひご覧になってください。その亀はアフリカからいられてきているものですが、世界でも数頭しかいない亀です。その亀は今約90歳ぐらいと言われています。その亀の寿命は約600年と言われているから、あと500年生きるものと思われます。その亀を見れば、皆様方の無病息災、病もなく長く生きられると思います。

もう一つ自慢できるのが、女子ゴルフ選手で、パク・セリという選手をご存じかと思いますが、その女子ゴルフ選手の出身地が大田です。それでは、大田の自慢はこれくらいにして今からビジョンについて申し上げようと思います。

ビジョンというのは、未来に対する市民との約束と言えらると思います。ビジョンを活性するために環境の変化をうまくやっていかなければならないと思います。今の韓国においては、知識情報化の流れが早い速度で行われています。コミュニケーションの発達によって、第1派から3派までありまして、我々は今第3派の中にいると言えらると思います。今の日本の野村研究所の話によれば、第3派から次の第4派に入っていると、第4派というのは知識世界、知識社会に入っているという話があります。第3派というのは情報化、情報競争社会で、第4派は文化が該当してくるかと思われます。上の方に書いてある社会は元々農業を本質とした社会、資本社会、今は頭脳社会と言えらると思います。精神と物質が別々にあるのではなくて、一元化されて一緒にあるという考え方です。下の方に書いてある空間のない空間、時間のない空間という概念があります。こういった社会においては優れた想像力が必要ですし、ぶれない信念を持ったリーダーが必要だと思われます。そういった意味で大きな夢を描ける時代が今の時代かと思われます。そして、コンピューターの発達によって、人間が持っている靈感が活躍する時代だと言えらると思います。

次に、大田の発展ビジョンの基礎を申し上げます。未来のトレンドの変化について申し上げます。今までは成長を志向してきたパラダイムでしたが、今後は持続可能なパラダイムに移っていくと思われます。今までは貧困からいかに脱出するかを考えていましたが、その中から成長を生みだし、その後には分配の問題がどの社会にも起こっています。そういった中で、経済がいい時もあり、悪い時もあり、雇用を生まない経済成長を生みだしています。今まで量的な成長、不均衡な戦略を中央政府が主導してきたと言えらると思います。それから、革新指導型の成長、均衡のとれた経済成長が大切になると思われます。今まで都市の価値を申し上げたときに、競争、拡張、

効率でしたが、今後は共存、安全、環境、生態性というのが気になってきます。今まで中央政府が中心となって統制するという流れの中の発展であったと思います。今後は中央政府と地方自治体とのパートナーシップが重要となってくるし、そういったことをいかに出してくるかが非常に重要な課題、問題となってくると思います。

これは韓国の変化を書いているのですが、日本と同じように高齢化、出生率の低下というのが問題になっています。そして、もうひとつ経済的な両極化、富める者と持たないものの極端な差が出ています。技術的な面では仮想空間が出てきますし、またいろんな技術の融合化が今後出てくるかと思っています。経済面では知識を基にした経済、グローバルに活躍できる人材が望まれる時代となってきます。環境面では、気候変化と環境汚染の問題、エネルギー危機が訪れると思います。政治的にはグローバリゼーション、国際化とローカルゼーション、地方化が同時に進行する特長を抱えております。もうひとつ、韓国特有の問題ですけれども、南北統一が期待されています。

大田のトレンドについて整理して申し上げます。人口の構造について言うと、全体的に減って、高齢者の占める割合が高くなると思います。世宗市が建設されるので、それを中心として大田市自体が拡大していくと思います。福岡の場合は福岡市、北九州市と、福岡県全体で約 500 万規模を持っていますが、大田、世宗市、近隣都市を併せて 300 万規模の都市を考えています。

これが先ほど申し上げた行政都市世宗市の絵です。2007 年から行政都市世宗市の開発が始まって、2030 年ころに完成の運びとなっています。世宗というのは韓国の昔の王様で、1 万ウォン札に絵が載っている世宗大王様です。昔の王様の名前を取って、世宗市と名前をつけました。世宗市は完成が 2030 年、人口は約 50 万人を予定しています。韓国のマスコミでは、2030 年に 50 万人までいけるのかという憂慮する声が出ています。その理由は公務員が地方には行きたがらないだろうという背景からです。多分、日本でも東京から田舎に行くのは距離感があるのかと思いますが、韓国でもソウルから地方都市に行って生活できるんだろうかという心配、憂慮があるかと思っています。私自身は 2030 年には 50 万を超えるだろうという見込みを持っています。なぜかと言うと、権力が移譲するから 50 万は可能だと思っています。ですから、大統領とか国会はソウルにあったとしても、政府の中央部処、2 部というのは日本でいう省ですが、部や庁が、世宗市に移転されますので可能だと思っています。日本も同様だと思いますが、政治と経済は密着した関係にありますので、政府機関が地方に行けば、それに関連した企業や経済活動も移転されるのではないかと期待しています。この世宗市の位置ですが、大田市から 20 分の距離にあるところです。これができた暁には世界的な都市のブランドとして誇れるものになるので、観光的な面もかなり強いかと思っています。日本でいう省の組織が 9 個世宗市に移転されるということです。

最近、話題になっているのは、科学ベルトの造成のことです。科学ベルトについては、いろんな反対があって、スムーズに行かなかったところもあったんですが、地方の努力によって、科学ベルトの誘致に成功しています。忠清南道、こちらの地元の人が中央政府と交渉、そして激しい対立の末に科学ベルトの誘致に成功しています。これは日本にある茨城にある筑波の研究団地をイメージしていて、基礎的な科学研究がなされ、将来的にはノーベル賞を受賞される方の輩出も可能かと思っています。

現在の大田市の市長は 5 期目です。現市長のスローガンとして「大韓民国新中心都市、大田」というのを掲げています。新中心都市というのは、量的なものではなく、質的なものを重視して新と付けています。偏重ではない集積であって、センターではないハブ、空間ではない役割という意味を込めています。市政の方向としては、住みやすい大田、夢がある大田、世界の中の大田

を掲げています。住みやすい大田を成し遂げるために富裕な都市を目指し、経済的な発展が不可欠になってきます。人間都市を掲げていますので、それには共に生きる、そして発展が必要になってきます。人間と人の違いなんです、人間というのは単独で人間は単独で生きる、人はコミュニケーション、環境で生きるということで、人が住める、人が幸せなところ、そういった意味で使っています。環境と人、共に、持てる人と持てない人が共生できる社会を意味しています。世界の中の大田を成し遂げるためには、創造都市にならなくてはなりません。21世紀の競争力は文化であり、想像力です。これは大田が持っている条件、変化を書いています、重複した面が多いので省略します。

それでは、大田の現在を見て、強み、弱み、どういったチャンスがあり、脅威になるのは何かを整理しています。大田の強みとして最初に挙げるのが豊かなR&D、資源及び力量と書いています。弱みとしてR&Dを持っているのにもかかわらず、産業化、商業化されていないということです。先端的な技術の開発は大田でなされても、実際の活用は首都圏、ソウルでなされているという状況です。機会の方でいうと、大田を中心とした都市圏が拡大するものと考えています。

その脅威としては、地域のR&Dが都市の拡大によって、研究が分散されるという問題が到来すると思っています。今、韓国では大きな都市の場合はほとんどR&Dの研究都市の開発に非常に興味を持っています。どこの都市でもいろんな強み弱み問題点がありますが、大田は豊かなR&Dをもっている地域であるので、それを活用した新しい成長モデルを創出するという事について研究しています。今までは基礎的な研究が不足していたんですが、なされる環境が整いつつあります。今回の先ほど申し上げた科学ベルトを誘致できたので、そこを中心として基礎的な研究がなされ、その中から商業化、運用できるようなシステムを作って、商業化することが大田で可能かと思えます。

ビジョンの設定はこのようにしています。「創意と交流で未来の大韓民国を開いていく新中心都市」というのをビジョンに掲げています。大韓民国は自然の資源のない国ですので、創意、創造力がある意味では資源だと言えます。ここに創意交流と書いていますが、交流の意味は、人文系とかいろんな学問があって、それだけでなく、工学系、科学とかそういうものとの融合させるという意味で、こちらで交流という言葉を使っています。例をとって申し上げますと、ITの技術と医療の技術を融合させることで大きな波及効果を生み出すことが知られています。

これは大田の未来像ですが、公的な空間としては、大田市、世宗市、その横の清州（チョンジュ）市をつないで、新しいゾーンを形成できるということです。都心面では魅力的な都市空間を作り出すことができます。ここに書いていますけれども、都市の面では、夜間の景観、照明を利用した夜間に人を呼ぶための夜間景観、夜間ラインというのを計画をしています。大田の駅前など、昔の街並みの方では商売がうまくいかない問題を抱えています。旧市街地を活性化するために、LEDの照明を設置して誘客することを、今考えています。アメリカのラスベガスのように200メートルぐらいの通りをLEDで埋めて、照明とそれを利用した映像を通して、人を引きつける、寄せ付けることを考えています。環境としては、きれいな水、豊かな自然を活かした環境のいい都市を作っていこうと思っています。

福祉面では生涯にわたって、社会で安全に生活できるセイフティーネットの構築をしていこうと思っています。日本に来て、いつも羨ましく思っているのが、生涯学習がうまくいっているんですが、そういうことを勉強して、大田での生涯学習ネットワークを構築しようと思っています。今日のセミナーも一つの生涯学習の一環だと思っていますが、こういったことを通して、市民の皆さんの意識向上を通して、都市の発展、住みやすい都市の実現につながろうかと思っています。

次は各部門の発展ビジョンについて申し上げます。最初は都市部門について申し上げます。都市空間の問題として拡散しているのが、交通、緑地の問題があります。今後、都市はもう少し集約的に作って、交通やエネルギーの減少を追求していこうと思っています。都心に人々の休める空間、緑ある空間を作って、そういったものがある都市を作っていこうと考えています。ビジョンとしては快適で競争力がある都市というのが、ビジョンです。そのためには都市のインフラが必要なのですが、特に交通、住宅、公園、緑地が必要かと思っています。最近、住居の環境もかなり変わってきています。都心に多くの人々が住み始めたということ、核家族化によって、家の大きさより、家の戸数が必要になってきたということもあります。大田が中部圏に位置しているので、中心的な都市としてインフラ構築が望まれています。一般的な大衆交通網を整備して、便利な大衆交通網構築を今掲げています。スマートグリーンという言葉を使っていますが、こういうことを通して、環境のいい住居を作ることを目指しています。魅力的な都市景観を作るために、科学象徴的な通りなどを今考えています。グリーンネットワーク構築ということで、緑を均等に配置して連結性のある都市を考えています。

次は交通です。これについては福岡から学ぶべきことが多いと思っています。今、大田は150万の人口を抱えているんですが、地下鉄は1つの路線しかありません。今、地下鉄2号線の話が上がっていて、地域において世論の形成がなされているところです。今の中央政府の見解としては、地下鉄は非常に消極的、地上に建設するという方向で、小型の車両の輸送手段を研究しています。今の福岡の樗木先生の話では、地下鉄のほうがいいのではないかと聞いています。将来的な都市景観の問題とかありますので、地上よりも地下のほうがいいんじゃないかというお話をいただいています。建設にあたって、約60%は中央政府の財政的な補助を受けるので、中央のほうがそう言っている限り地下の方は難しく、地上ということで、磁気浮上式の地上を走る列車を考えています。そういった高架で電車を作ってしまうと、景観や騒音の問題、都市の空間を分断してしまうという問題があるので、協議がなされているところです。そういう問題を解決するために、今日午前中に福岡の3号線、七隈線を見て来ました。日本では福岡だけでなく、いろんな経験や実績があるので、よく学んで100年後の大田市民が後悔しないようなものを作ろうと思っています。

交通というのは便利でなくてはならないし、アクセスが非常に重要で、快適性が求められ、あらゆる年代、幼い人から老人まで全ての方が利用できるというのが目標です。今、大田では交通関係の赤字を埋めるために補助金を出しているんですが、地下鉄と市内バスを全部合わせて約500億ウォンのお金を毎年出しています。都市の問題を解決するには全ての方々が便利に感じるものを作らなければならないし、全ての方が便利で利用するとなると市の財政負担増も当然かなという思いもあります。複合機能都市の交通体系の構想としては、外部からの道路、幹線道路を建設し、早く移動できるというのが目標になってきます。市内の生活道路や裏道的な道路は、非常に安全で、歩行者、自転車が通れる道路を考えています。

こういった問題を解決するのは、TODの考え方の一環です。TODというのは大衆交通を中心に開発するという意味で言葉を使っています。福岡では、たぶん西区橋本地域が一つのモデル例になるかと思っています。今日、午前中に3号線に乗って、橋本駅を見て来たんですが、橋本駅を中心として、非常に交通量を減らした形で、快適な住居環境が確保されているということを感じています。そういった橋本みたいな開発事例は、韓国ではモデルになりますが、韓国ではうまくなされておらず、事例がありません。

大田は今後広域的な発展を遂げるためには、大忠清スーパーネットワークの構築が必要となっ

できます。交通の手段としてPRTという交通手段の導入を考えています。大量の人を一つの車両に乗せて運ぶのではなく、少数の人が乗れる列車、貨車を運行するシステムです。

次は環境の分野です。今後の未来は、低炭素の社会に意向していくと思っています。そして、水の問題について申し上げますと、水の質も大事ですが、量が今後は問題になってくると思います。エネルギーの確保、低減も非常に大きな問題になってくると思います。こうした低炭素社会を実現するためには豊かな森、公園などの花、樹木が必要になってくると思います。ビジョンとしては、自然と共にある、自然と一つになる都市を目指しています。目標は「きれいな水の都市づくり」、「緑豊かな森と花の都市づくり」、「自然循環成長の都市づくり」というのを掲げています。

最初の目標としては、エネルギー循環成長都市の実現があります。数日前ですが、韓国で大規模停電があって、非常に問題になったいきさつがあります。韓国の発電所は需要はあったんですが、9月の間に気温が上がるという予測ができなくて、ああいった大規模停電を招きました。中央政府が電力の需要の見誤り、十分な供給があると思っていたことが背後にあったと思っています。日本では最近、エネルギーの削減、節約に非常に興味を持っていますが、韓国はそれに対してまだ関心が低い状況です。エネルギー問題を解決するには、少ないエネルギーで済むビルや交通機関が今後重要だと思っています。今、韓国では総電力の約40%は原子力発電所に頼っています。今後は新エネルギー、再生エネルギーへ舵を切るしかないと思っています。皆様方も再生エネルギーへの転換は容易ではないとお感じかと思います。最近、太陽光、風力とかありますが、なかなかそれに代わるエネルギーまではいっていない状態です。ですから、今、我々がやることとしては、エネルギー効率をできるだけ上げる。できるだけエネルギーを使わない省エネルギー社会を追求していくことが大事かと思っています。

資源循環型の都市の実現をなしていかなければならない課題だと思っています。韓国におきましては、1990年代にゴミの総量規制を行って、かなりゴミの全体量を減らしたんですが、これは今後とも必要な課題だと思っています。

都市の建物が隙間なく、密集した形で建ててしまうと、汚染も発生するし、いろんな有害物質が累積する。また、都市全体の温度も上がるという悪影響ももたらします。建物を建てるときに風の流れを考慮して建物を建てると、都市全体の温度を下げることもできるし、それがエネルギーの節約につながるかと思っています。

大田には3つの大きな川があります。川をきれいにして、昔泳げたような水質に戻す目標があります。行政としては、下水施設の拡充とか投資は必要ですが、市民一人一人の意識、参加が必要かと思っています。大田の河川は3つありますが、それほど、豊かな水量を誇っているわけではありません。下水処理場の水をポンプで上に返したりという努力をしています。都市の中ではアパートとか集合団地では、そちらである程度浄水して、河川に流すという努力をしています。日本でいくつか例があると思いますが、都市で大きな地下タンクを設置して、それに水を貯めておいて、渇水期に河川の流量が少ない時に流すということが必要かと思っています。今後、環境に優しい水の再生センターを構築して、水の再利用も念頭に置いています。大田は絶対的に緑地がかなり多いのですが、都心は少ないので、木を植えて緑豊かな都市を目指しています。季節ごとに咲く花をアパートやいろんなところに植えて、花のある都市、花のあるまちを目指しています。

次に経済産業部門です。今後、経済を主導していくのは製造ではなく知識だと思っています。様々な技術が融合することが望まれるし、それとともに低炭素が実現する課題があります。産業面でのビジョンとしては、世界最高水準の先端科学技術の融合、産業化を成し遂げることです。

大きな企業の誘致や、元々あった企業の支援を通して、製造と都市が結びつく都市像を目指しています。国際科学ビジネスベルトが出来れば、世界的なレベルを持った科学技術、水準を持った都市になると思います。我々の忠清地域は、ITと医療に特化した地域です。そして、さらに進んだ新しいITをいろんな産業と融合させて、医療やバイオに活用して、今後の食糧問題についても貢献しようと思っています。世宗という行政都市があって、その北側に大徳（テドック）という研究団地があります。その横には五松（オソン）というバイオを中心とした研究都市も控えています。そうした特色を持った地域が融合すれば、新しい産業、シナジー効果を生めるものと思っています。

文化観光部門について簡単に申し上げます。今後、市民が文化に対する欲求が高まるものと考えています。余暇文化、体験に対する欲求も増大すると思っています。MICE産業、コンベンション、展示、イベントとかのコンベンション事業に関心をもって支えていこうと思っています。今の教育分野では創造的な人材を育成することを念頭においています。大田は、人口の中で、大学生が占める割合が多い地域です。大学が地域の経済に及ぼす影響力が大きいので、若い創造的な人材の育成、発掘に力を入れています。

ビジョンとしては、夢と想像力を実現する教育文化の芸術都市を掲げています。躍動的で創造的な未来都市文化を創造するために、地域で活動している芸術家を支援しています。エキスポを開いた敷地の一部分をHDドラマタウンとして造成しています。HDというのは高画質で撮れるところです。将来的には韓国で作られるドラマを全部大田でやろうと考えています。今後、有名なタレントや韓流スターに会う時は、大田に来るといえることになると思います。

福祉としては生涯学習を考えていて、若い人は若い人の学習があって、高齢者には高齢者の学習の場の提供を考えています。この絵は日本の八潮市で今やっていることで、出前講座という授業があるそうで、市民が5人集まって、こういうことを話してほしいということを依頼したら先生が来て、それについて語っていただけるといって、それを勉強して大田でもやろうと考えています。この事業をやって効果としては、雇用の創出にもなっています。講師は経歴のある高齢者や主婦の方で、出前講座をやる講師を約2000名抱えています。市民の立場としては、時間がなくて学習できない方、遠くに住んでいて学習できない方が学びの場を享受できるという効果があります。

次は福祉について申し上げます。今、社会的に非常に格差が出来ているので、福祉が目まぐるしくなっています。韓国も世界的に高い水準で高齢化社会になって、出生率が非常に低いという問題を抱えています。特に農村、漁村で男性の結婚相手がいないという問題があって、フィリピン、カンボジアという地域に住む女性と結婚して住み始めるという、そういった意味で多文化社会になりつつあります。高齢化に伴う老人の問題や、主婦の問題や子どもを多角的に並行して解決しなくてはならない福祉状態にあります。

福祉のビジョンは分かち合いと共生の温かい福祉大田を作る、実現するというのがビジョンです。そういった意味で、しっかりとした生活基盤を保障すること、能動的な福祉を実現することを掲げています。そのためには、実現するためには老人の働く場を提供すること、職のない人に職の提供、雇用の提供を考えています。老人の方が使う福祉施設、老人の方のための建物を提供するよりも、老人の方が働ける雇用の提供の方が重要だと考えています。大田ではシニアクラブを作って、その中で老人のみができるような仕事、例えば、唐辛子の味噌を作ったりとか、年齢のいった方の方がうまくできる仕事の提供、紹介をしています。シニアクラブの活動を円滑に行うためには、そういったところで作られた商品を市民の方々が購入することが重要だし、雰囲気

の醸成が必要かと思います。先週、韓国はお盆だったんですが、日本と同様、お世話になった方にプレゼントを渡す習慣があるんですけども、その時に自分自身は、先ほど申し上げたシニアクラブで作った商品を買って、中元として配りました。シニアクラブを通して出る収益は、全てそこに携わった老人の方々の人件費に回っています。シニアクラブを運営する職員の人件費は、大田市から出ています。大田では福祉の共同体を作っています。ここには抜けているんですが、福祉共同体を今作って運営しています。これは、政府や地方自治体が提供できないサービスを民間がやっていく共同体事業です。例えば、老人に子どもがいても、子どもからの援助が全くない方に対する支援とかです。自分自身に子どもがいるにも関わらず、子どもから全く支援が受けられない方は、国や地方自治体が何かを補助するという法的な制度がありませんので、民間の方がお金を集めて老人に差し上げるという活動をしています。そうして、金銭的なもの、物質的なもの、医療サービス、精神的サービス、相談相手になるとか、話し相手になるという事業も展開しています。女性の社会進出が活発になりますので、女性が働き、子どもを育てやすい環境の整備が必要かと思っています。障がい者の方々の支援、障がい者の方々が暮らしやすいユニバーサルデザインの推進をしなければならないし、それに対する施策を今立てている段階です。最後に、2030年、今から20年後ですけども、大田の姿、未来像を絵でご紹介します。

今、ずっと早口で大田の発展状況と今後の目標を話してきました。福岡から学ぶ点も非常に多いと思っています。皆様方も今日の話が聞かれて、いいアイデアや意見がありましたら、大田の政策に反映したいと思いますので、後でぜひお願いします。

4. 質疑応答(15:15)

事務局：意見、質問のある方は挙手をお願いします。

聴講者：3つほど質問させてください。まず、行政都市として、首都機能移転ということが韓国で行われています。日本でも国土の均衡ある発展という趣旨で実際にあったわけですが、機能移転というのは国家の方針として動いていくときに、韓国で安全保障という意味合いで大田が選ばれた背景があるのかどうかをお聞かせ下さい。二つ目は、パラダイムの変化という話は大変興味深かったんですが、中央の政府中心の成長志向のパラダイムから中央と地方政府のパートナーシップへという流れがありました。実際に韓国の経済は、国が中心となっているような投資を行うという中央主導型の計画の中で、こういう将来ビジョンに向かったエネルギーな投資が行われているようにも見えますけれども、まちづくりの中で国の役割と市や地方政府の役割はどのようになっているのか。国中心のまちづくりになっているのかどうか、そのあたりの様子をお聞きしたいと思います。3つ目は私の感想というか印象なんですが、今、非常に韓国は国際競争力、経済全般的な成長が非常に元気がいいように見受けられます。これは以前1998年通貨危機があった以降何か大きな変化があったように思われますが、そういう印象が正しいかどうか教えてください。

李院長：行政都市の移転に伴って国家の安保の影響については、実際は、国家の安保に対して韓国民は非常に鈍感な面があります。なぜかと言うと、国境の近くに約50%が住んでいるわけですから、ある程度ご理解していただけたらと思います。口では、全ての方が北に対して不安を口にしますが、多くの方が北朝鮮に近いところに住んでいるというのが事

実です。我々は、国家の安保と国家のバランスのとれた発展という意味で、ソウルから首都機能に移そうと言っているのですが、ソウルに住んでいる方々は反対します。口では北朝鮮の安保のことを言いながらも、ソウルにおいておきたいという相反した言動も見えます。首都機能移転については、外交的な、安保的な要素よりも地方の欲求のほうが高いのかなという気はしています。次に2番目の質問について申し上げます。広義の中では、中央政府と地方自治体とのパートナーシップが大事だと申し上げましたが、現実的には中央の方がかなり持っているというのが現状です。税金の話で申し上げると、日本でも地方税と国税とありますが、韓国は国税が約8割、地方税が2割です。お金で統制しているのが中央政府だと言えます。地方都市は多くの補助をもらうために、中央政府に対して陳情する立場です。地方自治体が独自の政策や発展が難しく、地方自治体の方向性とかのかなり面で中央政府の指示があるということです。ですから、中央政府の方が各地域の特性や特長を知らずにデザインをしてしまうので、問題が起きているのです。権限の面でも約60%は中央政府が握っています。地方自治体が独自の政策を打ち出すのは非常に難しいです。地方都市でやる開発や再開発は、全て中央政府の承認が必要になってきます。その裏には必ず財政がついてまわるということです。日本でも地方分権とか、地方の時代とかいろんなことを言われていますが、なかなか進んでいません。それは、韓国も一緒に、首都圏、中央政府が元々からもっていた権力の移譲はうまくいっていません。キムデジュン大統領、ノムヒョン大統領のときに、日本と同様、地方分権とかに関心を持ったんですが、中央官僚の抵抗にあって、なかなかスムーズにいかなかったということがあります。今、現在、イミョンバク大統領は地方分権、地方の時代ということに関心が低下しています。新しい中央集権になっているのかなと思います。来年、韓国で大統領選挙がありますが、そのときの争点が地方分権になるかなと思っています。韓国の競争力の非常に弱いのが政治です。憲法上も大統領の権限の集中が過度であると申し上げることができます。来年の大統領選挙の時には、市民、社会団体が声高らかに叫んでくるだろうと思います。3つ目の質問ですが、1998年にIMF通貨基金のことですが、国際競争力が上がったのは一つの契機になっております。1998年以前は、経済的な問題としては、不透明なことが問題でした。その当時、政府と企業、特に大企業の癒着の問題がありました。IMF通貨基金は構造的な改革、リストラみたいなことを経て透明性の高い方向に舵を切っています。ですから、そういうことを通して企業の政治への従属性も低下しています。それよりも国際競争力は人材の育成、開発がそれ以上に大きかったと思います。競争力を高めるには人材の育成、活用が問題ですし、今後社会的な発展、個人が持つ信頼性が尚一層必要になるだろうと思います。

事務局：時間の関係で、もうひとつ、ご質問のある方はお願いします。ないようなので、これで終わりとさせていただきます。

5. 閉会 (15:30)